



奈良県農業研究開発センター ニュース

2024
12
vol.167

奈良県初のオリジナル水稻品種 ‘なら酒 1504’ を育成しました

～平坦地域向けの大粒で倒伏しにくい酒米新品種～

奈良県平坦部での栽培に適した酒米新品種 ‘なら酒 1504’ を育成しました。成熟期は ‘露葉風’ より遅く、 ‘ヒノヒカリ’ よりやや早い中生品種です。稈長は ‘露葉風’ と同等ですが倒れにくく、収量は ‘ヒノヒカリ’ と同等です。大粒で心白発現率が高い特性があります。

1. 背景と目的

奈良県における酒米の準奨励品種である ‘露葉風’ は中山間部向けの早生品種で、平坦部における栽培には適していません。また、主食用、酒米用共に、これまで本県育成の水稻品種は無く、オリジナル品種の育成が望まれていました。

そこで、本県平坦部での栽培に適した中生で ‘ヒノヒカリ’ と同等の収量性を有し、大粒で倒伏しにくく、醸造適性の高い酒米品種の育成を目標に取り組みました。

2. 研究成果の概要

2014年に ‘露葉風’ と ‘山田錦’ を交配して得られた個体に ‘吟のさと’ を交配し、得られた種子から目標に合った系統を選抜・固定しました(図1)。

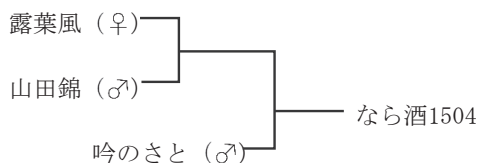


図1 ‘なら酒 1504’ の系譜

2021年から奈良県農業協同組合、奈良県酒造組合との共同研究により、現地実証試験、醸造適性試験を行い、現地適応性と醸造適性が高いことが確認できましたので、 ‘なら酒 1504’ として2024年4月26日に品種登録出願(第37411号)し、同年8月28日に出願公表されました。

‘なら酒 1504’ の出穂期は8月22日で ‘露葉風’ より11日遅く、 ‘ヒノヒカリ’ と同等、成熟期は10月4日で ‘露葉風’ より11日遅く、 ‘ヒノ

ヒカリ’ より5日早いです。稈長は93cmで ‘ヒノヒカリ’ より7cm長く、 ‘露葉風’ と同等ですが、耐倒伏性は ‘露葉風’ より強いです。精玄米重は50.5kg/aで ‘露葉風’ および ‘ヒノヒカリ’ と同等です。千粒重は28.1gと ‘露葉風’ より大きく、心白発現率は93.6%で ‘露葉風’ と同等です(図2)。

醸造適性試験の結果、吸水時にやや割れが多いが、もろみの香りに違和感無く、吟醸香も感じられ、醸造適性はあると評価を得ています。

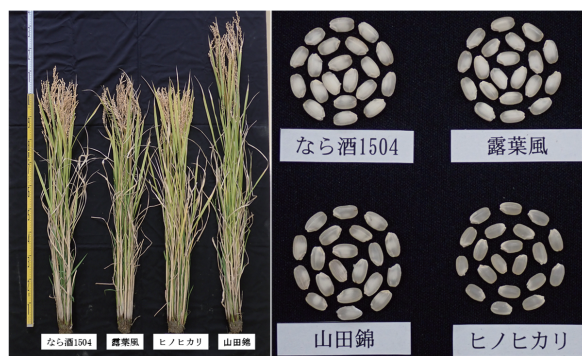


図2 ‘なら酒 1504’ の株(左)と玄米(右)

3. 実用化に向けた対応

‘なら酒 1504’ の栽培にあたっては奈良県との利用許諾契約の締結が必要で、現在奈良県米麦改良協会と契約を締結しています。なお、栽培地は奈良県内のみ限定しています。

2024年度は県内の蔵元で玄米約30t分の醸造が行われる予定です。

今後は、 ‘なら酒 1504’ の生産安定に向けた栽培試験に取り組んでいきます。

(栽培・流通科 小林幹生)